候者有之候ば、其者之宿見屆斷置、此方に可及案内候。下にて口論仕打合候ば可爲越度事。

（天和二年）戌十二月廿四日

右覺書入御覽候所、向後爲縮所々に可申觸旨被仰渡に付、如斯候條、各家來下々は勿論、御組中下々にも被申付候樣御申渡可有之候。以上。

二月四日　　御算用場

五九　無用之職人浪人金澤に罷越候儀觸

近年惣而無用之職人・浪人等、金澤に罷越事不吟味に而、品により害に罷成、益は無之被思召由に候。向後彌遂吟味候樣に、金澤町中其外所々町方并郡方に至迄相觸候條、可被得其意候。恐々謹言。

（天和三年）癸亥五月廿八日

奥村伊豫
前田佐渡
本多安房

六〇　女小袖縫金紗等停止之儀觸

一、女小袖縫金紗・惣鹿子仕儀、江戸・京御停止に付、御領國中右之職人向後指止候樣に急度可申渡旨被仰出候に付、金澤町中其外所々町方并郡方に至迄相觸候條、可被得其意候。恐々謹言。

（天和三年）癸亥五月廿八日

奥村伊豫
前田佐渡
本多安房

六一　御切米・御扶持員數調方之儀觸

御切米被下候者共、其員數紙面に何石何斗与相調申儀有之候。最前何十俵与被仰出候上は、左樣には有之間敷候。依之御切米は何茂俵と調、御扶持は何人扶持、知行は尤石に調可申候。向後諸奉行・諸役人言上之書付、如此相心得可申候。此外別紙に付米之員數書付上候には、品により石にても俵にても分聞安樣可調之候。ヶ樣之儀右之差別は無之候。且又百姓・町人等之儀は、是以可依其品候。一定仕事は無之候間、其心得可仕旨被仰出候條、頭裁許中并諸奉行・諸役人に可被仰渡候。以上。

（貞享三年）丙寅正月二十七日

津田玄蕃
奥村兵部
本多安房樣
奥村壹岐樣
奥村伊豫樣

向後御切米并御扶持方等被下人々員數被書上候刻、調樣之儀被仰出之趣、津田玄蕃・奥村兵部より申來候に付、則兩人書面寫遣之候間、可被得其意候。恐々謹言。

二月十五日

奥村壹岐
奥村伊豫
本多安房

六二　被仰出之節可必相守儀觸

前々より萬端被仰出候得共、ゆるかせに御座候故、漸違背仕と被思召候。惣而御意之趣、心得違などゝ申儀有之間敷事に候。當御在國中被仰出候筋於相違は、畢竟不用御下知与可被思召候間、此段何茂申聞置候樣被仰出候條、急度可被得其意候。恐々謹言。

（貞享三年）五月廿一日

奥村壹岐
津田玄蕃

六三　毎月廿八日服裝之儀御定

於金澤、毎月二十八日何茂常々通之服にて可相詰。於江戸は朔望・廿八日同事之服たるべし。以上。

（貞享三年）寅五月廿八日

朱書。御親翰之寫也。

六四　閉門人之儀御定

覺

一、閉門被仰付者共、表裏共門打、其合目を外より板を打付可申事。

一、出がうし窓、何茂板打ふさぎ可申事。

一、輕者共しほり戸躰之片戸びらなどは、五六寸丸の竹か